

No. 1311

資源とエネルギーを大切に

資源せつやくがさげばれている折、太陽の熱エネルギーを利用したソーラハウスが注目を集めています。東京都調布市。ここに太陽熱利用の実験用集合住宅がこのほどお目見えした。これは通産省工業技術院が昭和49年スタートさせた「サンシャイン計画」の一環として建てたもの。現在係員3名が常時コンピューターから出されるデータをチェックしています。」建物は鉄筋コンクリート3階建てで18戸からなり、ランキン機関、ヒートポンプなどを備えた太陽熱利用の冷暖房、給湯システムを設置しています。このシステムを利用すると年間を通じ冷暖房、給湯に必要なエネルギーの約60%を太陽熱でまかなうことができます。ある主婦は「とても快適です。風呂なども3分で湧き、ガス、電気代が非常に安くつき助かります」と話します。石油は今世紀末に掘りつくされるとの予測もあり、新エネルギーの開発はこれからの大きな課題。限りある資源とエネルギーを大切にしたいものです。

茶 筥 の 村

— 奈 良 ・ 生 駒 —

奈良県生駒市高山町は古くから「茶筥の村」として知られている。一見何の特色もない農村を思わせる町だが、約40軒の茶筥業者が居り、年間60~70万本、全国で作られる茶筥の90%以上を生産している。機械化が進むなかで、この茶筥造りだけはまだほとんどが手造り。製法の基本は ①片木 ②小割り ③味削り ④面取り ⑤下編み ⑥腰直し ⑦仕上げ、の7工程である。

ここの茶筥は3年前、通産省から伝統的工芸品に指定された。若い人たちも、この製法を覚えようと懸命、従って他の業種にありがちな後継者の心配はない。原料の竹は普通2~3年生の淡竹が使用される。寒い時期に切り、寒ざらしで自然乾燥しておく。同じ茶道具と言っても、茶わんと違って茶筥は使い捨てられる。が、お茶を点てる役目を持ち、人と人の交わりを深める大切なお役目を果たす。